

# 上級者☆問題

1. 「エコロジカル・サニステーション」の説明で、間違っているものを次の中から1つ、選びなさい。

- A) 環境先進国であるスウェーデンのNGOが紹介した、節水と衛生面を考えたトイレ。
- B) 1つの便器に二つの穴をあけ、それぞれ大用と小用に分けて溜めておくため、少ない水で汚物を一気に流せるトイレ。
- C) 汚物を肥料として利用し、水もほとんど使わずにすむ「一石二鳥」のトイレ。
- D) 途上国でも普及が可能な、地球に優しいトイレ。

2. 水危機時代のトイレのあり方はどうあるべきだと言っていますか。次の中からふさわしくないものを1つ、選びなさい。

- A) 開発途上国では、劣悪なトイレ設備が原因で病気になる場合もあるので、そうした国々でも普及が可能なトイレの開発が望まれる。
- B) 節水を考えたトイレの開発が必要で、日本の最新型節水トイレは各国から優れたトイレとして注目を浴びている。
- C) 限られた水という資源を最小限に利用し、かつ、環境面にも気を配った次世代トイレの開発と普及を推進していかなければならない。
- D) 水洗トイレの普及は衛生面を考えた上で大切だが、その水量規制を考えることも忘れてはならない。

3. 本文の内容と一致するものを次の中から1つ、選びなさい。

- A) 日本政府によって開催された「トイレ・水循環国際シンポジウム」では、各国のトイレに関する現状報告がなされ、将来のトイレのあり方について話し合いが持たれた。
- B) 節水と衛生面を配慮したスウェーデンのNGOが紹介したトイレは途上国でも普及が可能なトイレだが、寄生虫や病原菌がいる小便を利用することに反対の意見も出る可能性がある。
- C) 日本では、大量の水を使わずに、汚物を処理することのできるバイオトイレが高所観光地などで既に利用されている。
- D) 水洗トイレの水量規制を法制化したシンガポールのトイレに比べ、日本の最新節水型トイレは、未だ法規制がなされていないにもかかわらず、約2倍の節水が実現されている。